

きたむきかんげおんどう
25 北向観世音堂

所在地 高山村大字尻高地内（熊野）

熊野山福蔵寺と称し、永保元年（1081）修験者法印熊野坊によって開創されました。永禄年間火災で焼失し、かつ世継ぎ無く尻高左馬亮景家の次男鉄丸に相続させ、廣順法印と称し中興の開祖としました。天台寺門宗。江戸時代文化文成の頃、信濃国別所北向観音堂を勧請し、通常北向観世音と呼んでおります。



そうしょうじ
26 雙松寺

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

平形丹波守の菩提所として、天文2年（1533）字宿浦に一堂宇が建立され、慶長14年（1609）字古寺に移転、正保2年（1645）6代平形作右衛門が所持の山林を寄進し現在地に移転、寛保元年（1741）7代平形作右衛門は鉄眼の一切経を寄進、同2年に後藤源衛門有常が須弥壇・前机を寄進。宝暦元年（1751）には本堂が再建され、同3年に後藤



孫右衛門が山門を寄進しております。雙林寺末の曹洞宗で、開創より現住職まで28世を数えます。



27 ほうしんじ 法信寺

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

建保元年（1213）の開基、中山城主阿佐美庄五郎弘方及び中山右衛門両氏の菩提寺として草蔵寺と号しました。後に元龜天正の兵乱により、城主没落と共に、火災のため灰燼かいじんに帰し、僧侶も皆離散してしまいましたが、遺臣奈良泰窓は、落城後に一庵を結び、旧主家及び戦死の人々の冥福を祈り、僧の姿となり形



となり経を唱え菩提を弔い、この庵を法蔵寺と呼びました。その子奈良左近は諦こ譽真念上に帰依し請じて開基とし、法信寺と改め、沼田正覚寺の末となり浄土宗に属しました。これは慶長18年（1613）のことで、万治2年（1659）土地を賜り、城址から現在の地に移され、現住職は27世を数えます。



28 せんりゅうじ 泉龍寺

所在地 高山村大字尻高地内（熊野）

文祿元年（1592）関田地内にあった真言宗龍海山泉照寺を移転し、慶長3年（1598）みなかみ町嶽林寺5世伝察和尚を開山に迎え、以来曹洞宗となりました。慶安2年（1649）20石の御朱印を賜り、5年に一度江戸城へ御年礼の登城となりました。貞享5年（1688）7世代に本堂・山門・鐘楼堂を建立し、御朱印地寺院の面目を完備し、現住職は23世を数え、今日に至っております。



なお、境内には県指定天然記念物「泉龍寺の高野槇」があります。



②9 みくに かいどう なかやまじゆく 三国街道と中山宿

中山道高崎宿から分かれ、金古・渋川・北牧・中山・布施・須川・永井等の宿場を経て、三国峠を越え、越後・佐渡に至る街道を三国街道と呼びます。

表裏日本を結ぶ最短路で、長岡・村松・与板・新発田・村上等の大名や佐渡奉行の通行のため本陣が置かれ、宿人馬は25人25疋^{ひき}が常備された問屋場があり、蚕繭・縮^{ちぢみ}や太物^{ふともの}などの反物・茶・魚等の諸業商人、飛脚などの往来がありました。

慶長17年(1612)宿立馬次^{しゆくだて}、丹波・和泉両人で折半で問屋を受け持ち、寛永13年(1636)丹波の倅、作右衛門が新田に宿立し問屋となり、本宿の丹波の郷右衛門・和泉の徳右衛門三家とも本陣や問屋として家系が続いています。



← 本宿



新田 ↓



③0 にしかたおうこうせきひ 西形翁功績碑

所在地 高山村大字中山地内(新田)

東地区広場の北、万葉歌碑の隣にあります。

西形平七郎は、弘化4年(1847)中山村五領に生まれ、利発の上勤勉で戸長となり、地租改正に取り組み、山林の国有化をのがれて可能な限りの村有化を図り、これに係る租税のために私有地の売却までも行いました。この結果、村有林は、薪炭の原木生産や家畜の飼料採草地また屋根替えの茅場として、村民に多くの富をもたらしました。



31 せんかくしゃしょうとくひ 先覚者頌徳碑

所在地 高山村大字中山地内（判形）

中山城址の南、舌状台地の先端、中山診療所の反対側で国道をやや登ったところにあります。

明治22年（1889）に中山村と尻高村が合併し、高山村となりましたが、その際両村の村有林は、区有財産的性格を持たせたものの、粗放な経営のため荒廃が進み、この対策として、官公造林を村の先覚者達が決断し、村民全体を対象に尻高労働組合と中山事業組合をつくり、反対者の説得など種々の困難を乗り越え、計画的植林を昭和年代まで実施しました。この成果は、社会資本の充実と村の振興に計り知れない恩恵を与えることとなりました。



32 しおばらたすけせつたいちゃやあと 塩原太助接待茶屋跡

所在地 高山村大字中山地内（茶屋ヶ松）

県道渋川下新田線を渋川方面へ、なぎなた坂の歌碑を過ぎ、渋川市へ入る手前を右手に入った処に、通称「松が茶屋」の跡があります。

現みなかみ町下新田出身の塩原太助は、この峠を通り江戸へ出て



炭屋塩原として成功し、数々の公共事業に尽力した一端として、天保5年（1834）当地の茶屋主人の久兵衛に茶釜と茶代や普請金を贈り、往来する旅人の喉を癒しました。



わかやまほくすいかひ
③③ 若山牧水歌碑

所在地 高山村大字中山地内

(本宿)

歌人若山牧水は、大正7年
(1918)権現峠を越えてはじめて
吾妻の地に入り、峠に憩い

雑木山登りつむれば

うす日さし

まるきいただき

もみじ
黄葉照るなり



と詠み、翌日判形山屋旅館を出立、石古根あたりで、

このあたり低まりつづく毛の国のむら山のうへに浅間山見ゆ

と詠んだのを記念して、権現峠に村内の短歌愛好同志が協賛して歌碑
を建立しました。



③④ どうどう (鏜々) 淵 どうどう ふち

所在地 高山村大字尻高地内 (関田)

名久田川の流が関田地内上流
部で数丈の滝となり、その下が
深い淵となっていて、滝の音が
どうどうと遠くまで響いたので
こう呼ばれました。ここには、
小さな石が大きな石を削ってで
きたおうけつ甌穴が造られています。

この淵にまつわる伝説があり
ますので、その一つかしわん貸椀伝説を
紹介します。

人寄せができたが膳椀がたり
ないので泉照寺に借りに行った

ところ、住職がこの淵に立って祈りをささげると、膳椀が淵の中からあら
われ、用が済んで淵に返しに行く川底へ沈んでいきました。この事がうわ
さとなって、どの家でも借りるようになりましたが、ある家で皿をこわし、
返さないことがあってから、借りることができなくなってしまいました。



なかやまこじょうし
 ③⑤ 中山古城址

所在地 高山村大字中山地内
 (新田)

旧県道36号線「三国街道」と国道145号線「真田道」の交点から北東約1kmの小高い山稜にある中山氏の居城で、4筋の堀切と3曲輪から成る山城部と、これに囲まれた小屋場（居住区）からなる径200m²の平山城です。

武蔵児玉庄の阿佐美実高は正治2年(1200)中山村を領し、子孫が土着し地名をとって中山氏を名乗り、中山城を築城しました。以降、斉藤系の中山氏などを経て、17代約380年間城主としてこの地を治めました。天正10年(1582)城主中山右衛門尉は、真田沼田勢とともに小田原北条・白井の長尾勢と戦って敗れ、廃城となりました。



ごりょう ひゃくばんけちがんと
 ③⑥ 五領の百番結願塔

所在地 高山村大字中山地内(五領)

西五領南の丘陵部で道が東西に分岐するところから、東側の道を約10m程のところ立つ石塔です。

平成5年立春前に自然に塔が倒れ、その基部から、経文字の書かれた小石と茶壺の破片が出土しました。塔は、銘文から天明2年(1782)地域の人々が協力して建立したものです。



③7 ^{しおぼらたすけうま} 塩原太助馬 ^{まつ} つなぎの松

所在地

高山村大字中山地内（新田）

県道36号線赤根トンネルの入口、ポケットパークの反対側を左折し、金比羅峠までの途中にある東屋^{あずまや}の北に、樹齢約280年を経た老松がありました。しかし、豪雪のあった年にあえなく倒伏してしまいましたので、後年、後継松が植えられています。

この松には、塩原太助が江戸へ向かう時、愛馬「青」と別れにつないだという、いわれが伝えられていました。



③8 ^{ごんげんやまじょうし} 権現山城址

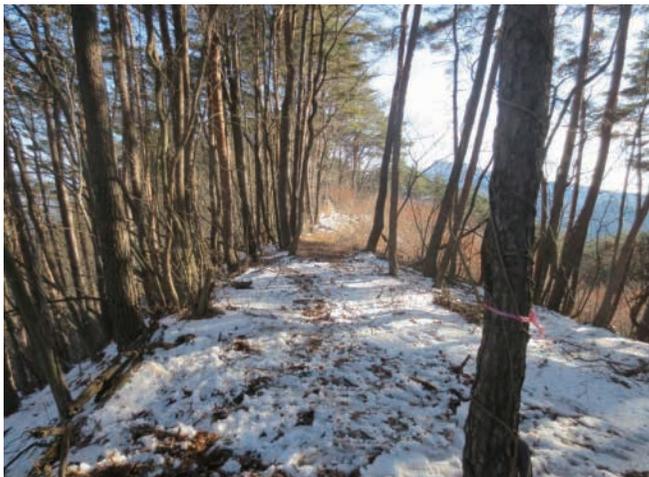
所在地 高山村大字中山地内（本宿）

三島神社から林道仙貫線を登り、仙貫峠（榛名峠）の東西に帯状に広がる城で、小田原北条氏が名胡桃城の対城として構えたものです。権現堂城・権現峠城・榛名峠城など呼び名に諸説ありますが、権現山城が通説となりつつあります。東から本曲輪・二の曲輪、

仙貫峠を越えて西曲輪と尾根続きに広がっている列郭式の山城です。

築城は天正16年（1588）前後で、僅か3カ年たらずの命脈しかなかったのですが、名胡桃城の至近にある城として城掟に「境目之儀候間、少者不可致油断事」とあり、至巖の警戒を常時強いられて

いた、無くてはならない城だったのです。



39 三島神社懸仏

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

鏡面に仏・菩薩像・神像などを半肉彫または線刻したもので、神の信仰と仏の信仰とを折衷して融合調和するという神仏習合の風潮のなかで、神体としての鏡に本地仏が現れるという発想にもとづき、寺社に奉納されたものを懸仏といいます。また、^{みしょうたい}御正体ともいい、鎌倉期から室町期のものと考えられます。吾妻では、当神社と四万^{いなつつみじんじゃ}の稲裏神社にあるのみとのことです。



40 三島神社無幻の額

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

渋川郷学の祖堀口藍園にして、弘法・道風以来の書家といわれしめ、しかも、^{ちよくじょう}勅錠に^{かんじょう}よって灌頂を受け密法を教示する資格である^{ちよくでんぼうおおあじやり}勅伝法大阿闍梨の称号を得た人、^{つのだむげん}角田無幻^{きごう}揮毫の額が、皆金文字に塗られて掲額されています。縦 約70cm、横 約120cm



ほうしんじあみだによらいぞう
④1 法信寺阿弥陀如来像

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

念仏を修する衆生は極楽浄土に往生できると説く浄土宗の、本尊様は阿弥陀如来です。当寺の如来像は、江戸馬喰町大仏師光祐法印作で、総丈230cm、蓮台れんだいまで95cm、光背こうはいは透しぼり、雲中に25菩薩を数えます。脇待きょうじは観音と勢至菩薩で、総丈158cmあります。



そうしょうじだいはんにゃきょう
④2 雙松寺大般若経

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

智慧の完成されたもの「般若波羅密」の義を説く諸經典を集大成した、600巻の最大の仏典を大般若経といいます。当寺の大般若経は、安永2年（1773）正菴山法印義珍の代に新添したもので、明治に至るまで中山神社で加持祈禱に用いられており宮司中山喜根丸が寄進しました。

